

# 音楽学習指導案

日 時 平成25年5月31日（金）公開授業Ⅱ  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
2年B組40名  
会 場 音楽室  
授業者 赤坂裕子

## 1 題材名

「創作にチャレンジ!!」 ～iPadを使用した創作表現～

## 2 題材について

### (1) 生徒観

これまで、合唱や鑑賞、器楽（アルトリコーダー・箏・尺八）を中心に音楽の授業を行ってきた。合唱では斉唱から始まり、初めての混声3部合唱そして4部合唱と様々な曲に挑戦し、選曲の幅を広げてきた。また、素晴らしい合唱曲との出会いや、合唱をつくりあげるプロセスを体験し、合唱の意味や合唱に対する自分なりの価値観が形成されてきている。鑑賞では、「春」や「魔王」など著名な曲を通して、楽器や声そのものの魅力を知ること、そして、曲の雰囲気を作り出しているものの正体を考える学習に取り組んできた。器楽では、実際に楽器に触れて演奏すること、演奏に必要な技術を一人一人が身に付けることを前提に、その曲にふさわしい表現を追求し、また、何ができて何ができないかという診断を自分自身で行うことができるように、短いフレーズでもみんなの前で演奏することを積極的に行ってきた。

このように、これまで聴く側として、または演奏する側として音楽にかかわってきたが、音楽をつくる側の経験が乏しい。つくるという経験は、音の使い方に対するルールに気づいたり、音楽を形づくっている様々な要素を再認識したりすることにつながり、これまでの音楽に対するかかわり方がより深まることが期待できる。本題材を通して学習されたことが、今後の歌唱・器楽・鑑賞分野の学習に生かされ、生活の中でより主体的に音楽にかかわろうとする生徒を育成したい。

### (2) 題材観

本題材では、学習指導要領【第2学年及び3学年】A表現の(3)創作の活動を通して指導する事項であるア「言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること」と共通事項「リズム」「旋律」「構成」にかかわる学習を中心としている。

対象となる2年生は、1年生の時に簡単な旋律創作に取り組んでいる。「喜びのうた」（ハ長調）の動機に続いて2小節の旋律を、再び繰り返される動機に続いて終末部の2小節の旋律を創作する内容である。使用する音をC・D・E・F・Gの5音に限定し、リズムも原曲のリズムをそのまま用いた。曲の構成（反復や変化）や、次に音楽が続くことを予感させる音や終わる感じがする音があることに気付かせ、さらに器楽の活動とかかわらせて、アルトリコーダーで作品を交流し合う学習に展開させた。

本題材では、この創作の学習経験を生かし、グレゴリオ聖歌やジャズ、といった様々なジャンルの音楽を提示し、自分で音を操作しながらそれらしい音楽を工夫してつくることにより、それぞれの音楽の特徴を感じ取らせる活動を行う。「Virtuoso」（iPadアプリ）を使用し、聴いた音楽を2人1組で即興的に演奏し、それらしい雰囲気の音楽を工夫してつくる活動から、主体的に音楽にかかわることの喜びを得ること、様々な

ジャンルの音楽やそのしくみに関心を持つこと、そして、音楽を形づくっている要素である「リズム」「旋律」「構成」の理解を深める学習を目指したい。

### (3) 学びの自覚化について

本校音楽科では、「感性を豊かにし、主体的に表現・鑑賞する生徒の育成」を研究主題としている。

音楽科の目標に示されている「音楽に対する感性を豊かにする」とは、音楽による成功体験や感動体験の積み重ねによるものであり、この体験が生涯にわたって音楽にかかわり続ける原動力となり、音楽に対しての自己効力感を生み出すものとなると捉えている。自らやってみたい、もっと知りたいという欲求を持つことから、自分の目標や課題が明らかになり、それらに対してどう迫っていくのか、その学びの過程を自覚し、音楽に主体的にかかわっていく生徒の育成を目指したい。

本題材では、創作に iPad を使用する。その理由としては、①創作した音楽は実際に音として表出できる。②即興的に音を出しながら音楽の試行錯誤が可能である。③和音を感じながら作曲ができる。以上の3点が挙げられる。これまでの創作の活動では、創作の試行錯誤の段階や作品の交流にアルトリコーダーを用いてきた。しかし、アルトリコーダーの既習曲を通し演奏することはできるが、音を自在に操作して旋律を試行錯誤していくには演奏技術に課題があった。生徒一人一人が試行錯誤しながら音を操作することは、主体的に音楽にかかわることであり、和音が伴奏としての機能を持つことから音楽を立体的に感受することができ、学習を通して感動や楽しさを味わうことができる。その意味では、だれでも簡単に音を操作できる iPad の使用は有効であると考えられる。

## 3 題材の指導目標及び評価規準

### (1) 指導目標

- A 旋律とその伴奏、リズムなどのかかわりに関心を持たせ、それらを生かして旋律を工夫して創作する学習に意欲的に取り組ませる。
- B リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、旋律創作に取り組ませる。
- C 言葉や音階などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な音の組み合わせ方を身に付けさせる。

### (2) 題材の評価規準

| ＜観点1＞<br>音楽への関心・意欲・態度                                     | ＜観点2＞<br>音楽表現の創意工夫  | ＜観点3＞<br>音楽表現の技能                                      |
|---|---|---|
| 旋律とその伴奏、リズムなどのかかわりに関心を持ち、それらを生かした旋律をつくる学習に意欲的に取り組もうとしている。 | リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、表現したいイメージをもち、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 | 言葉や音階などの特徴を生かした音楽表現をするために必要な音の組み合わせ方を身に付けて、旋律をつくっている。 |



## 5 本時について

### (1) 主題

ジャズの音楽の雰囲気や特徴を感じ取り、実際につくってみよう。

### (2) 指導目標

ジャズの音楽の雰囲気や特徴を感じ取り、iPad を用いてジャズらしい音楽をつくらせる。

### (3) 評価規準

| 観点    | 「おおむね満足できる」状況 (B) と判断するポイント  |
|-------|--|
| 【観点1】 | <観察・発言><br>旋律とその伴奏，リズムなどのかかわりに関心を持ち，それを生かした旋律を工夫してつくることに意欲的に取り組んでいる。 |
| 【観点2】 | <ワークシート・観察・発言・作品交流><br>ジャズの音楽の雰囲気を知覚し，リズム，旋律，構成が生み出す特質や雰囲気を感受している。   |

### (4) 指導の構想

本時は、単旋律のグレゴリオ聖歌や中世ノートルダム楽派のペロタンのオルガヌム、ドローン（持続音）を用いるバグパイプの音楽に続いてジャズを取り上げる。生徒たちは、iPad を用いて生徒が音を試行錯誤しながら、それらの音楽を真似てつくっていくことにより、音楽がもつ雰囲気や特徴に気付いていくことをねらいとしている。

これまでの学習は、西洋バロック以降の音楽が中心的で、調性が明確で拍子感があるものにふれることが多かった。しかし、音楽には多様なジャンルがあり、使われる旋法もジャンルによって多数存在する。グレゴリオ聖歌は、ドリア旋法なども用いられ、西洋の長音階に慣れ親しんだ者にとって、その響きは神聖で、印象的である。生徒が主体的に音楽にかかわり、音楽に対する自己効力感を得るには、「もっと聴きたい、もっと知りたい、自分でつくってみたい」という欲求を持つことができると思われる。また、単旋律であったグレゴリオ聖歌から時代が進み、ペロタンのオルガヌムの音楽、ドローン（持続音）を用いるバグパイプの音楽を扱い、時代の変遷に伴い、音楽のしくみも変化していることに気づけるようにした。そして、本時はジャズである。ジャズはリズムが軽快で即興的な要素が多く、聴く者の心をとらえる魅力がある。ジャズの魅力はどんなところなのか、どんな特徴があるのか、曲の雰囲気を真似ているうちに、様々なことに気付いていくと思われる。

本時の展開では、2人ペアで話し合いながら iPad でジャズ風の音楽をつくっていく。意見を交流しながら音を自由自在に操作していくが、伴奏の形は、鍵盤を演奏することが負担にならないように、簡単なリズムで音の変化も最小限にした。また、旋律については、ドリア旋法の特徴である、レからオクターヴ上のレの白鍵8音に限定した。

本題材では iPad を使用した。創作の活動では、器楽の活動とかかわらせることによって、生徒同士の交流が可能になり、さらに学びが深まることが期待できる。楽器を用いることなく、口ずさんだり、身体運動によって創作表現したりすることもあるが、楽器で演奏してみたい、つくった旋律を楽譜にしてみたいと願う生徒も多い。しかし、使用する楽器には、それぞれ技能面での課題が伴い、生徒の音楽経験によって差が生じてしまう現状がある。簡単に音を操作することができれば、生徒一人一人が安心して主体的に創作活動に取り組むことができると考えた。

今回使用する iPad アプリ「Virtuoso」は、ピアノの鍵盤を再現し、2人でデュエットできるように鍵盤の向きを変えることができる。鍵盤の幅は実際のピアノより狭いので、弾きにくさがあるものの、鍵盤を触る

だけで簡単に音を出すことができる手軽さは試行錯誤する場面に有効であり、集中して創作に取り組むことができると思われる。

(5) 本時の展開

| 段階                         | 学習活動及び学習内容   | 時間 | 学びの自覚化とのかかわり  |
|----------------------------|--|----|---|
| 導入                         | 1 前時の授業内容の確認と本時の学習内容を確認する。<br>・ドローン（持続音） + 旋律<br>・学んだことの確認をする。   | 5  |   |
|                            | ジャズ風の音楽を工夫してつくってみよう  |    |   |
| 展開                         | 2 ジャズの音楽を聴く。<br>*ワークシートに印象や曲の雰囲気・特徴を記入しながら聴く   | 40 | <p>■ワークシートに印象に残ったことや、曲の雰囲気・特徴を記入する。<br/>⇒創作に対する意欲を高める。</p> <p>■【iPadの使用】⇒学習に主体的に取り組む。</p> <p>■【ペア学習】⇒学習形態の工夫<br/>・仲間の作品や意見を交流させて、学びを深める。</p> <p>■課題を明確にし、どう解決していくか見通しを持つ。</p> <p>■他者の作品や意見を聴いて、学びを深め、新たな課題を見出す。</p> |
|                            | 3 ジャズ風の音楽を iPad でつくる。<br>【条件】<br>① 4分の4拍子で4小節の長さとする<br>② 伴奏は、決められたパターンを反復<br>③ 旋律は、使用する音をレからオクターヴ上のレまでの白鍵8つに限定 |    |   |
|                            | 4 各グループのジャズ風の音楽を交流させる。<br>・ジャズ風音楽の雰囲気や特徴を意見交流する。   |    |   |
| 5 交流した意見をもとに、自分たちの作品を振り返る。 |  |    |   |
| 終結                         | 6 題材を振り返り、これまでの学習で学んだこと、気付いたことについてワークシートでまとめて発表する。   | 5  |   |